

60

セイコーエプソン(株)、エプソン販売(株) ▶ 多賀城市【宮城県】

UTMグリッドを活用した防災対策の推進

多賀城市では東日本大震災での教訓を活かし、災害対応に係る関係機関において位置情報の共通認識を図るためにUTMグリッド地図、及びそれに係るICT機器・システムの活用を積極的に推進している。

背景

東日本大震災など大規模震災においては、救助隊員などが現場で活動を行う上で、標識や目印となる建物が著しく破損。そのため正確な位置情報を自治体・警察・消防・自衛隊等の関係機関で共有することが困難となり、同一の場所へ複数の組織が出勤する等の不具合が生じた。

そこで、多賀城市では国土強靱化アクションプランの主要施策であるUTMグリッド地図の採用を決め、関係機関のみならず一般市民も含めての有効活用に積極的に取り組んでいる。UTMグリッドは緯度経度に比べて少ない桁数の数字で位置情報の共有ができるというメリットがある。

概要

①地理院マップメーカー／地理院マップシートを活用して多賀城市全域のUTMグリッド地図を作成し災害対策本部や関係機関で共通の地図を活用している。

②UTMグリッド座標を記載したシールを、市内の主要箇所に貼ることで、一般市民や旅行者などが事故や災害に遭遇した際に正確な自己位置を救助機関へ伝えることができる。

③災害現場で活動する多賀城市職員、警察官、消防隊員、自衛隊員は腕時計型GPS機器を携帯することで自己位置のUTMグリッド座標を容易に知ることができる。

④GPS機能付スマートフォンで撮影された災害現場写真を災害対策本部の指定するメールアドレスへメール送信すると「撮影時間・住所・UTMグリッド座標」を付加して写真を印刷する。これにより災害対策本部では現場の状況と場所を正確かつ簡単に共有することができる。



UTMグリッドシール



腕時計型GPS機器



UTMグリッドサンプル



アピールポイント

■デジタル情報とアナログ情報の融合

スマートフォン／クラウドシステム／ウェアラブル機器といった最新のICTを活用したデジタル情報と、災害現場のようにネットワークや電源が無い状況においても人間がハンドリングしやすく情報共有できる紙地図／貼り紙／掲示物などのアナログ情報を上手く融合することで、いざという時でも機能する防災システムを目指している。

■UTMグリッドシールの幅広い活用

UTMグリッドシールを街中や山岳エリアなどにおいて防災のみならず、観光／イベントなどでの用途を開拓することで、普段から皆が使える社会インフラとしての普及を目指している。これにより、その地域全体が「安心・安全・豊かな地域」となることができる。

セイコーエプソン株式会社 IT推進管理部 <http://www.epson.jp/company/>

〒191-8501 東京都日野市日野421-8 Tel.042-586-6226 Fax.042-581-0479